



# ナビカタ 発見 プロジェクト



第1号

令和4年3月発行

青森県総合学校教育センター

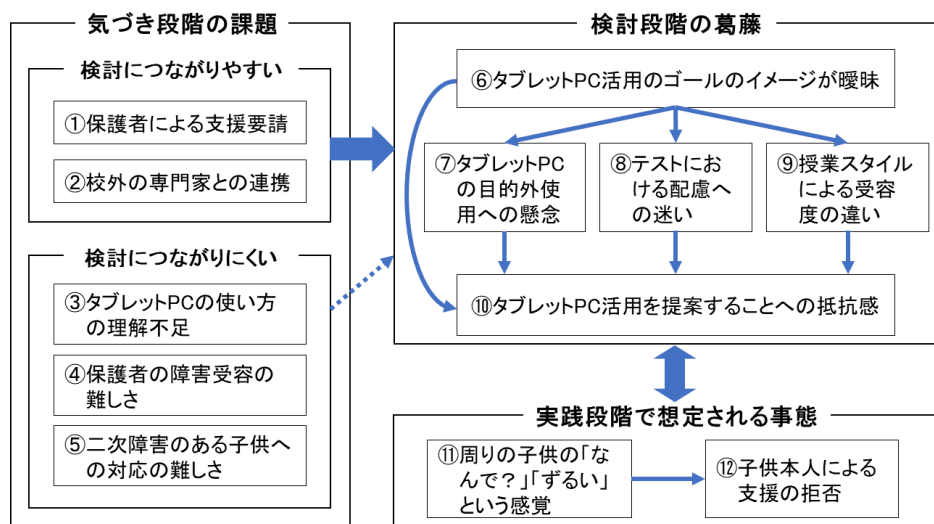
## 読み書きの困難さをタブレットPCで補おう

研究テーマは、「特別な支援を要する児童生徒への機能代替アプローチによるICT活用の理解啓発に関する研究」です。この研究テーマでは、少し難しそうなお印象を与えてしまう可能性もありますので、私たちは、標記の「マナビカタ発見プロジェクト～読み書きの困難さをタブレットPCで補おう～」をキャッチフレーズにして、研究活動に取り組んでいます。特別な支援を要する児童生徒、とりわけ読み書きに困難のある児童生徒に焦点を当て、「自分に合ったマナビカタ(学び方)の発見」をサポートすることを目指しています。

### プロローグ「先生方の本音を探る」

「読み書きに困難を抱えている子供がいたら、タブレットPCで学べるように配慮しましょう。」と唐突に言われても、小・中学校の通常の学級の先生方は戸惑ってしまうと思います。私たち研究チームは、まず、先生方の本音を知る必要があると考えました。そこで、小・中学校の教師10名を対象として、半構造化面接法によるフォーカス・グループ・インタビューを実施しました。

その結果、タブレットPC活用のゴールのイメージが曖昧であることが、読み書きの困難さを補うタブレットPC活用を提案することへの抵抗感につながっていることが推察されました。また、周りの子どもの「なんで?」「ずるい」という感覚への対応の難しさがその抵抗感を助長してしまう状況に成り得ると考えられました。(右図参照)



(図) 小・中学校の教師が抱く「読み書きに困難のある児童生徒へのタブレットPC活用」に対する課題意識

▶ 「自分に合った方法で学ぶ権利の保障」という視点をもてるかが重要

### マナビカタ提案「①毎日の音読」「②漢字の書字練習」

**チェック**

- 漢字の読みが覚えられない
- 覚えてもすぐに思い出すことができない

文章を読んで学習する時間が増加すると…

学習意欲が低下し、生活全体に対しても消極的に

コンピュータによる読み上げや電子書籍を利用するなどの代替手段を使うことなどによって読み取りやすくなることを知ることについて学習することが大切

特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編

**チェック**

- 音や意味から漢字の形や位置は思い浮かぶが、細部が曖昧で、書き間違えてしまう
- 漢字は正しくイメージできているが、視知覚や協応動作の難しさから、書字が乱れてしまう

紙と鉛筆での漢字の書字練習を繰り返す

- タブレットPC等のアプリで漢字をイメージしてから書く
- アプリで漢字の書字トレーニングを行う

期待したほどの成果が得られず、生活全般において自信を失う場合がある

書字の抵抗感を減らし、学習意欲を引き出す

参考: 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編、教育の情報化に関する手引(追補版)

### ▶ こちらのWebページをチェック!

センター研究の成果物を掲載しているWebページです。特別支援教育チームでは、下記の解説動画に加えて、文部科学省等の関連資料をコンパクトにまとめています。  
[http://www.edu-c.pref.aomori.jp/?page\\_id=811](http://www.edu-c.pref.aomori.jp/?page_id=811)



#### ● 動画「音読の宿題でのタブレットPC活用」

- (1) iPadの読み上げ機能
- (2) Google Lensを活用した音読学習
- (3) Google Lensを活用した音読学習②
- (4) 音声教材について

#### ● 動画「漢字学習でのタブレットPC活用」

- (1) 「新・筆順辞典」の活用①: 練習したい漢字の探し方
- (2) 「新・筆順辞典」の活用②: 漢字学習の方法
- (3) 「新・筆順辞典」の活用③: 設定を変更してみよう
- (4) PowerPointを使った漢字学習